

ウィキペディア

ポンペイ

出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』



出典は列挙するだけでなく、脚注などを用いてどの記述の情報源であるかを明記してください。記事の信頼性向上にご協力をお願いいたします。（2020年8月）

ポンペイ（羅: Pompeii、伊: Pompei）は、イタリア・ナポリ近郊、ヴェスヴィオ山のふもとにあった古代都市。79年のある日のヴェスヴィオの大噴火で発生した火砕流によって地中に埋もれたことで知られ、その遺跡は「ポンペイ、ヘルクラネウム及びトッレ・アンヌンツィアータの遺跡地域」の主要部分として、ユネスコの世界遺産に登録されている。



ポンペイの想像図（79年の噴火前。現代より山が高い）



ポンペイの街並み（の遺跡）。劇場（写真中央、扇型）。背景は現在のヴェスビオ山（79年以降も噴火を繰り返し、山頂あたりが吹き飛び、低くなった）。



アボンダンツァ通り



ポンペイの街路（の遺跡）。車道と歩道が分離され、歩行者の安全に配慮されている。飛石状のものは横断歩道で、馬車や荷車の車輪は通し、人は雨天でも足を水溜りで濡らさず道を渡れる。



野外闘技場の遺跡。背景はヴェスヴィオ山。

目次

歴史

- 初期
- サムニウム期
- ローマ期
- 西暦79年のヴェスヴィオ火山噴火
- ポンペイの発掘
- 噴火日についての論争

ポンペイを題材にした作品

脚注

参考文献

関連項目

歴史

初期

イタリア先住のオスキ人とヒーコ人によって集落が形成された。紀元前7世紀頃はサルノ川の河口付近の丘に集落があった。その後紀元前526年からエトルリア人に占領されたが、ポンペイ市民はイタリア南部に居住していたギリシャ人と同盟を組み、紀元前474年クマエの海戦で支配から

脱した。ギリシャ人はその後ナポリ湾を支配した。紀元前5世紀後半からサムニウム人の侵攻が始まった。

サムニウム期

この節の加筆 (<https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=%E3%83%9D%E3%83%B3%E3%83%9A%E3%82%A4&action=edit>)が望まれています。 (2022年2月)

紀元前424年にはサムニウム人（あるいは「サムニテ人」「サムナイト人」en:Samnites）に征服されることとなった。サムニウム人はまた、カンパニア全体を支配した。この時代、ローマがポンペイを征服したという説があったが、現在この説を裏付けるものはない。

カンパニアの諸都市が同盟市戦争と呼ばれる戦争をローマに対して起こすと、ポンペイも反ローマ側に加わった。

ローマ期

紀元前89年、ルキウス・コルネリウス・スッラによって町は征服されポンペイは周辺のカンパニア諸都市とともにローマ（ローマ帝国）の植民都市となった。ローマの支配下に入った後のポンペイの正式名は「**Colonia Cornelia Veneria Pompeianorum**」（ポンペイ人によるウェヌス女神に献呈されたコルネリウスの植民市）となった。ポンペイは港に届いたローマへの荷物を近くのアッピア街道に運ぶための重要な拠点となり、以後は商業都市として栄えた。

ポンペイは商業が盛んな港湾都市であった。整備された大きな港があり、海洋都市でもあった（ポンペイ周辺で火山活動の地殻変動が続いたことで、現在の遺跡の海拔は上昇し、水辺から遠ざかった状態になっている）。またぶどうの産地であり、ワインを運ぶための壺が多数出土されていることから、主な産業はワイン醸造だったことが伺える。碁盤の目状に通りがあり、大きな通りは石により舗装されていた。市の中心には広場もあり、かなり計画的に設計された都市であることも分かっている。

街の守護神は、美と恋愛の女神ウェヌスであった。娼婦の館も発掘され男女の交わりを描いた壁画が多く出土したので、現代ではポンペイは「快楽の都市」と呼ばれることもある。古代ローマ時代は性的におおらかな時代であり、ポンペイに限らず古代ローマの商業都市には商人向け（旅商人向け）の娼婦館のような施設は多かったという。



ポンペイの拡張史。
赤 - 最古の街(サムニウム期)
青 - 最初の拡張。紀元前4世紀。
緑 - 2度目の拡張
黄 - ローマ帝国による拡張。紀元前89年より。



娼館に残っていた壁画



ポンペイのナルキッソスの絵

西暦79年のヴェスヴィオ火山噴火

噴火したのは西暦79年であることは間違いないが、その正確な日付については一部に議論がありはする（以下の解説では、一般に用いられている日付で解説する）。

西暦62年2月5日に発生したポンペイ地震により、ポンペイや他のカンパニア諸都市は大きな被害を受けた。再建作業はされたが、不完全な状態で西暦79年8月24日以降（噴火日については後述）の午後1時頃にヴェスヴィオ火山が大噴火し^[1]、一昼夜に渡って火山灰が降り続けた。

翌8月25日（噴火から約12時間後）の噴火末期に火砕流が発生し、ポンペイ市は一瞬にして完全に地中に埋まった。降灰はその後も続いた。軍人でもあった博物学者のガイウス・プリニウス・セクンドゥス（大プリニウス）は、ポンペイの市民を救助するために船で急行したが、煙（有毒火山ガス？）に巻かれて死んだことが甥のガイウス・プリニウス・カエキリウス・セクンドゥス（小プリニウス）による当時の記述から知られている。

当時、唯一の信頼できる記録は、小プリニウスが歴史家タキトゥスに宛てた手紙である。これによると、大プリニウスはヴェスヴィオ火山の山頂の火口付近から、松の木（イタリアカサマツ）のような形の暗い雲が山の斜面を急速に下り、海にまで雪崩れ込んだのを見た記録している。火口から海までを覆ったこの雲は、現在では火砕流として知られる。これは火山が噴火したときに、高温ガスや灰や岩石が雪崩のように流れる現象である。プリニウスは爆発時に地震を感じ、地面は非常に揺れたと述べている。さらに灰がどんどん積もり、彼は村から逃げなければならなかったが、海の水がみるみる引いていった後に「津波」がおきた。ただし、当時のヨーロッパ人は津波という言葉を持っていなかったので、プリニウスの表現は違っている。プリニウスの記述には、太陽が爆発によって覆われてよく見えなかったと続き、大プリニウスはこの現象を調査するために船で再び陸に向かったが、窒息して死んだ。

噴火直後に当時のローマ皇帝ティトゥスはポンペイに役人を派遣するが、市は壊滅したあとだった。市民の多くが火砕流発生前にローマなどに逃げたが、これら一連の災害により、地震の前には2万人程度いたポンペイ市民の内、何らかの理由で街に留まった者の中から逃げ遅れた者約2千人が犠牲になった。

ポンペイの発掘

「ポンペイ（イタリアのコムーネ）」も参照

噴火によって壊滅した後は二度と集落が作られることはなかったが、その後1000年以上「町」という地名で呼ばれた他、散発的に古代の品が発見されたので、下に都市が埋まっていることは知られていた。

1738年にヘルクラネウム（現在のエルコラーノにあった）が、1748年にポンペイが再発見され、建造物の完全な形や当時の壁画を明らかにするために断続的に発掘が行われた。これはドメニコ・フォンターナという建築家がサルノ川沿いを掘っていた1599年に遺跡を見つけてから150年が経過していた。この時点までヘルクラネウムとポンペイは完璧に消滅したと考えられていた。いくつかの男女の交わりを描く美術品（フレスコ画）は、最初フォンターナによって発掘されたが、将来考古学者によって再発見されたほうが重要性がわかるであろうと判断したフォンターナ自身が埋め戻したとされる。ただしこれには明確な証拠はない。ポンペイとその周辺の別荘からは多数の壁画が発掘され、古代ローマの絵画を知る上で重要な作品群となっている。ポンペイの壁画の様式には年代により変遷が見られ、主題も静物、風景、風俗、神話と多岐にわたってい



79年のヴェスヴィオ噴火による降下火山灰の被害地区（黒色部分）。火砕流による被害地域よりもはるかに広い。

る。男女の交わりを描いた絵も有名で、これらはフォルム（市民広場）や浴場や多くの家や別荘で、よい状態で保存され続けていた。1000平方メートルの広さをもつホテルは、町のそばで見つかった。現在、このホテルは、「グランドホテル Murecine」と呼ばれる。

ポンペイの壁画が豊かな色彩を失わなかった秘密は、この街を襲った悲劇にあった。79年のある日、町の北西10kmにあるヴェスヴィオ火山の噴火により押し寄せた火砕流や有毒ガスが、ポンペイの人々の命を次々と奪っていった。一瞬にして5メートルの深さに町全体を飲み込んだ火砕流が、当時の人々の生活をそのままの状態に保存した。ポンペイが人々の前にその姿を再び現した18世紀半ばから、発掘は今に至るまで続けられている。地中から次々と現れるローマ時代の遺品の美しさに世界が驚愕したが、その美しさの秘密は実は火砕流堆積物にあった。火山灰を主体とする火砕流堆積物には乾燥剤として用いられるシリカゲルに似た成分が含まれ、湿気を吸収した。この火山灰が町全体を隙間なく埋め尽くしたため、壁画や美術品の劣化が最小限に食い止められたのであった。当時の宗教儀式の様子を描いた壁画の鮮烈な色合いは「ポンペイ・レッド」と呼ばれている。ポンペイの悲劇が皮肉にも古代ローマ帝国の栄華を今に伝えることになった。

ポンペイは建造物や街区が古代ローマ当時のままの唯一の町として知られている。後の歴史家たちは、その歴史家の時代のローマは古代ローマをそのまま伝えていと誤解していたが、ポンペイこそが最も純粋に古代ローマの伝統を守り、ほぼ直角に交差する直線の大通りによって規則的に区切られ、計画的に設計された町であった。通りの両側には家と店がある。建造物は石でできていた。居酒屋のメニューも残っていて、こう記されている。「お客様へ、私どもは台所に鶏肉、魚、豚、孔雀（くじゃく）などを用意してあります。」

件の噴火時に発生した火砕流の速度は時速 100km以上で、市民は到底逃げることはできず、一瞬のうちに全員が生き埋めになった。後に発掘された際には遺体部分だけが腐敗消失し、火山灰の中に空洞ができていた。考古学者たちはここに石膏を流し込み、逃げまどう市民の最期の瞬間を再現した。顔までは再現できなかったが、母親が子供を覆い隠して襲い来る火砕流から子供だけでも守ろうとした様子、飼われていた犬がもだえ苦しむ様子が生々しく再現された。この様子は火砕流が一瞬にしてポンペイ市を埋め尽くしたことを示している。この石膏像の制作によって遺骨が損傷したため、ポンペイ市民の法医学的な調査は長らく滞っていたが、オプロンティス荘近くの商館と思われる建物の地下室から老若男女身分がバラバラ（居場所は身分別にある程度グループを作って固まっていた）な54体の遺骨が発見された。彼らは火砕流からは難を逃れたが、火山性ガスによる窒息で死亡して火山灰に埋もれていた。町は、1世紀の古代ローマ人たちの生きた生活の様子をそのまま伝える。焼いたままのパンや、テーブルに並べられたままの当時の食事と食器、コイン、クリーニング屋のような職業、貿易会社の存在、壁の落書きが当時のラテン語をそのまま伝えている。保存状態のよいフレスコ画は、当時の文化をそのまま伝える。当時のポンペイはとても活気のある都市だった。整備された上下水道の水道の弁は、水の量を調節する仕組みが現在とほとんど変わらず、きれいな水を町中に送っていた。トイレが社交の場となっていたらしく二人掛けのトイレが存在



19世紀に発掘されるポンペイ

発掘された肖像画、フレスコ、
国立ナポリ考古学博物館

石膏で復元した遺体

し、トイレは奴隷とその主が共同で使用しており、トイレの壁に「見事だ」と奴隷による落書きが残された遺構がある。発掘された排泄物や骨の調査から、身分によって食事の内容に違いはなく、皆健康的な食生活を送っていたらしい。

爆発時の町の人口は1万人弱で、ローマ人（ローマ市の住民）の別荘も多くあり、また彼ら向けのサービスも多くあった。**Macellum**（大きな食物市場）、**Pistrinum**（製粉所）、**Thermopolia**（冷たいものや熱いものなどさまざまな飲料を提供したバー）、**cauporioe**（小さなレストラン）、円形劇場などがあり、噴火直前までこれらが営業していた痕跡がある。**2002**年にはサルノ川河口にボートを浮かべ、ヴェネツィアのような船上生活をしていた人がいたことが判明するなど現在も新事実が続々と報告されている。

「市民全員が噴火で死亡し、唯一の生き残りの死刑囚がポンペイの町のことを語ったが、誰も信用しなかった。しかしそれは伝説として残り、発掘されることになった」という逸話が伝わるが事実ではないと思われる（とりわけ死刑囚に関する事項）。火砕流は歴史的にはまれな現象であり、目撃者は殆ど全員が死亡するので伝説としても残りにくく、一般人に理解されることは困難である。この逸話は**1902**年に、西インド諸島のフランス領マルティニーク島にあるプレー火山で起きた同様の火砕流噴火を下敷きにしていると思われる。この噴火では火砕流以外に麓のサンピエール市で泥流が発生し、警察の留置場に拘留されていた囚人を含めた**3**名のみを残して住民約**2**万**8**千人が一瞬にしてほぼ全滅した。

ポンペイの建築物が発掘により白日の下にさらされたことにより、止まった時計が再び動き出すかのごとく、雨風による腐朽が進行するようになった。**2010**年**11**月**8**日には「剣闘士の家」と呼ばれた建物が倒壊、翌**2011**年**10**月**21**日には「ポルタノラの壁」が倒壊している。

噴火日についての論争

[it:Data dell'eruzione del Vesuvio del 79] も参照

壊滅的な被害を受ける噴火の発生日は**79**年**8**月**24**日とされているが、**18**世紀に発掘が開始されて以来、発見された衣類、農作物などから実際に噴火したのは**8**月**24**日より後である可能性が示唆されていた。また、**2018**年の発掘調査では家屋の壁に「**11**月の最初の日からさかのぼって**16**番目の日」と書かれているのが発見された。これにより、実際に噴火が発生したのは**79**年**10**月**17**日以降である可能性が指摘されている^[2]。

ポンペイを題材にした作品

絵画

- ポンペイとエルコラーノの壊滅（復元版）、**1821**年、ジョン・マーティン作、テート・ブリテン蔵
- ポンペイ最後の日（ブリューロフの絵画）（The last Day of Pompeii、**1830-33**年、カール・ブリューロフ）
- ポンペイ（**1938**年、ポール・デルヴォー）



ジョン・マーティン作『ポンペイとエルコラーノの壊滅』（復元版）、1821年

小説

- ポンペイ最後の日（**1834**年、エドワード・ブルワー＝リットン）
- ポンペイの四日間（**2003**年、ロバート・ハリス）

映画

- ポンペイ最後の日（1926年、監督：カルミネ・ガローネ、アムレート・パレルミ）
- ポンペイ最後の日（1935年、監督：アーネスト・B・シュードサック）
- ポンペイ最後の日（1950年、監督：マルセル・レルビエ、パオロ・モッファ）
- ポンペイ最後の日（1959年、監督：マリオ・ボンナルド）
- ボルケーノinポンペイ 都市が消えた日（2007年、監督：ジュリオ・バーセ、TVムービー）
- マジック・ツリーハウス（2012年、監督：錦織博）
- ポンペイ（2014年、監督：ポール・W・S・アンダーソン）



カール・ブリュローフ作、「ポンペイ最後の日」

ドラマ

- 『ドクター・フー』第4シリーズ「ポンペイ最後の日」（2008年、監督：コリン・ティエグ）

音楽

- ポンペイ（pompeii、1977年、トリアンヴィラート）
- ヴェスヴィアス（Vesuvius、1999年、フランク・ティケリ）
- ピンク・フロイド・ライヴ・アット・ポンペイ（ピンク・フロイド）

漫画

- NGライフ 1-9巻（草凧みずほ）
- ジョジョの奇妙な冒険 第5部（荒木飛呂彦）
- プリニウス 第1話ほか（ヤマザキマリ）
- 世界史探偵コナン8 古代都市ポンペイの真実（青山剛昌・山浦聡）

脚注

- ¹ ^ “Visiting Pompeii (<https://web.archive.org/web/20080820155345/http://www.archaeology.co.uk/cwa/issues/cwa4/pompeii/eruption.htm>)”. Current Archaeology. p. 3. 2008年8月20日時点のオリジナル (<http://www.archaeology.co.uk/cwa/issues/cwa4/pompeii/eruption.htm>)よりアーカイブ。2012年9月30日閲覧。
- ² ^ ベスビオ火山噴火、日付の新証拠 ポンペイ遺跡で発見 (<https://www.afpbb.com/articles/-/3193580>) - AFPBB、2018年10月17日

参考文献

- 『優雅でみだらなポンペイ』 本村凌二（講談社、2004年）
- 『ポンペイ・グラフィティ』 本村凌二（中公新書、中央公論社、1996年）
- 『ローマの古代都市』 ピエール・グリマル（北野徹訳、文庫クセジュ：白水社、1995年）
- 『ポンペイ 古代ローマ都市の蘇生』 浅香正（芸艸堂、1995年、ISBN 978-4753801695）
- 『ポンペイ・奇跡の町 甦る古代ローマ文明』 ロベール・エティエンヌ
 - 阪田由美子、片岡純子訳 〈「知の再発見」双書10〉創元社、1991年

関連項目

- ポンペイの壁画の様式
- ガイウス・プリニウス・セクンドゥス（プリニウス）
- エドワード・ブルワー＝リットン
- ヘルクラネウム - 79年のヴェスヴィオ噴火でポンペイ同様に埋まった街。
- ナポリ県ノーラ付近の村の遺跡 - やはりヴェスヴィオ山付近で、こちらは山の北側だが、ポンペイよりはるかに古い青銅器時代、紀元前1800年ころの噴火で埋まった。近年ノーラにショッピングセンターの駐車場をつくらうとしている時に発見され、Giuseppe Vecchioが発掘チームの長となり発掘が行われている^[1]。
- 金井東裏遺跡（現・群馬県渋川市金井） - 榛名山の6世紀はじめの噴火により埋まった。
- 須走村（現・静岡県小山町） - 富士山の1707年の宝永噴火により3m以上埋まった。
- 鎌原村（現・群馬県嬬恋村） - 浅間山の1783年の天明噴火により埋まった。
 - 鎌原観音堂 - 鎌原村の観音堂

1. ^ Reuters, Buried village tells Bronze Age secrets. (<https://www.theglobeandmail.com/technology/science/buried-village-tells-bronze-age-secrets/article4157225/>)

「<https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=ポンペイ&oldid=88667834>」から取得

最終更新 2022年3月23日 (水) 02:45（日時は個人設定で未設定ならばUTC）。

テキストはクリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンスの下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は利用規約を参照してください。